常磐毎日

発行所 平市田町75 常磐毎日新聞社 営業部専用1210 編集部1266

産科 婦人科 齋藤医院 駅ヨリ三分 平市西町 電九〇二 入室完備

無免許で三輪車を運轉 ハイヤーと衝突三名が負傷

二日午後九時三十分ごろ磐城市折戸無職山口武夫(二七)がオート三輪車に同市字折戸漁夫斎藤寅一さん(三二)と同字岸浦加工夫栗村一郎さん(一九)の両名を乗せて同市下神白字一本松地内を進行中、前方から疾走して来た小名浜タクシーのハイヤー=運転手同市江名字江ノ浦高橋賢治さん(四七)=と正面衝突、山内は前額部に全治三週間の切創、斎藤さんは右ホホなどに全治二週間の切創、栗村さんは前額部に全治二週間の傷をそれぞれ負つた。このためハイヤーは前部に四万、三輪車は一万五千円の損害を受けた。磐城署で原因を調べているが、山口が無免許のうえライトの切り換えを誤つたもの。

平で二名が負傷 酔つてバイクを運轉

二日午後八時五十五分ごろ平市仲間町電球販売業杉本勇(四二)がバイクの荷台に同市番匠町運転手斉藤成巳さん(三五)を乗せて市内三丁目東邦銀行前路上にさしかかつたさい前方から疾走して来た常磐交通のハイヤー=運転手常磐市湯本字日渡前田良雄さん(三五)=に衝突、はね飛ばされて杉本は頭部裂傷で全治六カ月、斉藤さんは頭部に全治一週間の裂傷を負つた。原因は杉本が酒を飲んでスピードを出しすぎたもの。

三輪車ではねる

二日午後四時ごろ内郷市町ノ内製麺業小島一(三五)がオート三輪車を運転して磐城市滝尻字後川地内県道上にさしかかつた際、道路から飛び出してきた磐城市滝尻字町ノ内農業渡辺浄エ門さん(三)を跳ね飛ばして腰部に全治二週間の打撲傷を与えた。

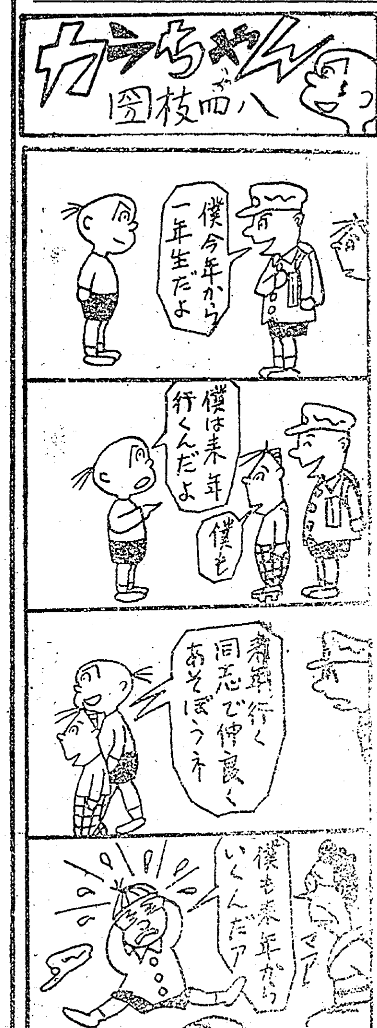
町村議長会

石城町村議長会(会長塩沢軍太郎氏)では八日午後一時から石城財務事務所会議で総会を開き、議員大会の開催日、三十二年度の事業計画などを協議する。

衛生管理者試験合格者

平労基署では去る二月行つた三十一年度衛生管理者試験合格者を二日発表した。同署管内の合格者は次の通り

上田豊俊(常磐)仲野武(平)尾島議悦(勿来)石田広文(四倉)川崎修(勿来)鈴木敏朗(磐城)石徹白昭雄(勿来)寺田正勝(内郷)吉田繁好(四倉)高村高(内郷)鈴木健二(好間)後藤享(内郷)井口治助(平)桜井文治郎(常磐)深田譲次(勿来)永山亘(内郷)斉藤武雄(内郷)室越広美(内郷)鈴木唯夫(四倉)田名網康雄(平)西田孝一(勿来)鈴木喜四郎(平)太田章(勿来)佐久間優(内郷)小山章太郎(平)遠山利康(好間)赤津誠一(勿来)酒井利重(平)荻谷隆雄(勿来)田中光一郎(常磐)坂本勇(磐城)若松八郎(磐城)斉藤章(平)草本寛(四倉)大坂文一(磐城)



公民館結婚第一号 五日常磐市で

常磐市湯本公民館は一人三百円で済むという結婚の簡素化を提唱してさきに簡素結婚の憲法ともいうべき「公民館結婚の要綱」をつくつたが、この第一号が五日午後一時から公民館日本間で行われる。この新郎は同市下湯長谷雅弘さんの長男本田正男さんと新婦は平市の片寄武男さんの妹鈴木栄子さんの二人、正男さんは八年前から栄子さんは四年前から常磐市電報局に勤め職場に咲いたロマンスが目出度く実を結ぶことになつたもので、式は公民館長の挨拶に新郎新婦が誓いの言葉を述べ結婚届に捺印する。ついで仲介や両家の挨拶などで一人三百円の経費ですむというもの

創設以来の成績 労災保険の収納状況

平労基署では昨年四月一日から三月十五日までの三十一年度労災保険取扱状況を調べていたが、一日まとまつた。この結果三十一年度の補償取扱件数は二万二千九百九十六件、補償費支払い総額二億三百七十四万五十八円、保険料の徴収決定額は二億五千百三十一万八百八十七円、これに対する収納額は二億三千三百九万六千三百一円で未収額千八百二十一万四千五百八十六円だが、収納率は十五日現在で九二・七%、三月末までの収納予定分をふくめると九六%に達する見込みであり、昭和二十二年九月労災補償制度が実施されて以来の優秀な収納率を示した。

これは神武以来の好況とともに事業主の関心が高まつてきたことを物語るものと同署ではみているが、この半面書類の不備で事業主に返戻したものは三千八百九十九件、月平均三百二十五件もあつた。これは事業主が労災事務になれていないためだとみて同署では一日から四日間、平市内を皮切りに管内で年度更新に伴う保険説明会と三十二年度保険概算提出指導会をひらくことになり、湯本、植田、小名浜はとくに係員が出張して受付サービスを行う。

労災補償制度は保険料の完全徴収保険金の完全給付、迅速払いに重点をおいているが、書類不備のため保険金の完全給付、迅速払いが不可能になり、小名浜港で作業中死亡した磐城市古港の遠藤秀雄さん(三八)に対する遺族補償金が、事業主に対して遺族から戸籍抄本が出されないばかりに二カ月も宙に浮き去る二十八日ようやく書類がまとまつて支払われたケースもあり同署でも本年度は関係者の協力により書類不備による返戻の絶無をはかりたいと語つている。

炭礦の事故増える 掘ればよい主義に警告

常磐炭田の炭砿では石炭ならなんでも売れるという動乱ブームをしのぐ好況期を迎いて保安設備もそつちのけで一かけらの石炭でも余計掘り出している、このため炭砿事故が続出し、とくに中小炭砿では炭車の不備また資材器具の取扱不整備などから重軽傷が多い、このため保安監督部平支部では災害減少と未然防止のためこのほど中小炭砿に警告をうながした。

平支部で調べたところによると未曽有の石炭ブームで四月の夏枯れ期に入つても石炭輸送は減るどころか逆に月平均三十六万トンを輸送するというほど景気がよい、このため中小炭砿では捲揚機、炭車、坑内保安には手が廻らず出炭一本槍で仕事をしているのが多いので炭車、器具などの不備から昨年中に全国で六百七名うち中小炭砿(三百十三名)が死亡している、このほか死亡寸前の事故、その他重軽傷はザツト三千名、統計に表われない事故を入れると一万名以上の人が災害を受けていると推定されるところから保安部ではさきに常磐地方保安こん談会を結成して各炭砿に対して保安指導に乗り出したもので、再三の注意にも違反したものはどしどし厳重に処分する方針を打ち出し災害防止をはかることになつたもの。

平文化ニュース館 いよいよ六日に開館

平に新しく誕生した「平ニュース館」は常磐市鈴木建設KKで設計建設を急いでいたがいよいよ六日から開館することになつた。同日は開館記念特別番組として総天然色マンガとニュース大会(大人二十円小人十円)を行うが、これに先きだち同館では落成を祝つて五日午後一時から地方の名士など三百名を招待して盛大なコケラ落しを行う。なお七日からは児童劇「白鳥物語」「結核と斗う」ほか二ユースとマンガを上映。入場料は大人三十円小人二十円の普通料金となる。

県下議長大会 八日内郷

第二十八回県下市議長会議は八日午後二時から内郷市で開き、十三日各市から提出される議案について審議する。

好間に火事

三日午前二時四十分ごろ好間村上好間字上ノ原斉藤勲さん(五七)方の北側牛小屋から出火。同小屋約十五坪を全焼して消し止めた。原因は平署で調査中

発電工事人夫を募集

平職安では発電工事の土木(坑夫大工、馬夫、雑役夫)など六十名を募集している。これは関東電力が世界第二の規模をもつて着工した黒部川水力発電所の建設要員で年令は十八才から四十五才までの男子で日給六百円から八百円までの好条件、締切は四月十五日まで

畜犬登録の受付け

平市衛生課では三十二年度の畜犬登録申請を八日から二十六日まで本庁と各支所で受付けることになつた。登録料は三百円で生後三カ月以上の犬、申請の時には印鑑、種類、年令、毛色、性別、呼び名体格を名記しておくこと。なお本年度は登録後において予防接種を行うことになつているので、必ず申請するよう望んでいる。

銘菓 平凡

平で慰霊祭

平市主催の戦没者追悼祭並に慰霊祭が十日午前十時から松ガ岡公園内忠魂碑前で関係者多数が列席して挙行される。

鈴木ミシン商会 平市五丁目 電一〇九八

本社来訪

福島民報平支社長高橋清氏、同次長桑沢満寿之介氏、地裁平支部判事早坂弘氏が着任挨拶、飯坂署長に転出の関清美氏は離任挨拶のため本社来訪

女子事務員急募
▽高卒 ▽旧市内在住者 ▽自筆履歴書持参▽委細面談
北川呉服店 平市一丁目 電三九四

照諒院 葬送の際は 御多忙中の処遠路態々御会葬下され且つ御鄭重なる御香奠を賜わり誠に有難うございました 早速拝趨の上御礼申上げるのが本意ですが略儀乍ら紙上を以つて御礼申上げます

昭和三十二年四月三日

平市鎌田町字岸一七
妻 矢ケ崎キク
男 矢ケ崎有信
友人総代 猪狩仁三
親戚代表 矢ケ崎愼義

厚生医療指定病院
財団法人 竹林病院
本院 平市十五丁目十三番地 電話六〇八・八二一番
分病棟 平市小太郎町十三番地 電話一二七四番

可愛いお子様の!
保健と衛生の
御相談は….
電話40・1940番へ
関内薬局
平市四丁目 電40・1940

男女店員急募(数名)
▽年令二十才前後 ▽学歴不要
▽通勤可能の者
右御希望の方は履歴書持参下さい
◎委細面談
鈴木勘氏商店
第一店平市一丁目店電一六三八
第二店平市平和通り店電七三三

ホームラジオは古山電氣 平2

外務員募集
一、身体強健意志堅固な方前歴学歴経験不問
一、給与(固定歩合給有)月収壱万五千円也程度
一、面接日時四月一日ー四月十五日迄毎日午前九時ー午後五時迄
一、詳細面談(履歴書二通お持ち下さい)
子宝靴代理店
株式会社 万邦商事 平出張所
平市大町(東北配電平営業所東隣り)

ハムを立てれば肉屋が立たず
ハム、ソーセージなどの肉の加工品がもの凄く出るので豚も牛もちつとも安くなりません。文化食品の魅力の素晴らしさ!
○只今大宣伝特売中
○ハム 百匁 一七〇円ー三〇〇円
○ソーセージ百匁一〇〇円ー二二〇円
四日特売大根みりん漬 百匁 二二円
藤越 小名浜 平市

笛の詩 34

絵と文 谷田部風太郎

笛の章 3

(俺を尋ねて来た……?。)

啓介は不審そうに名刺をのぞいた。

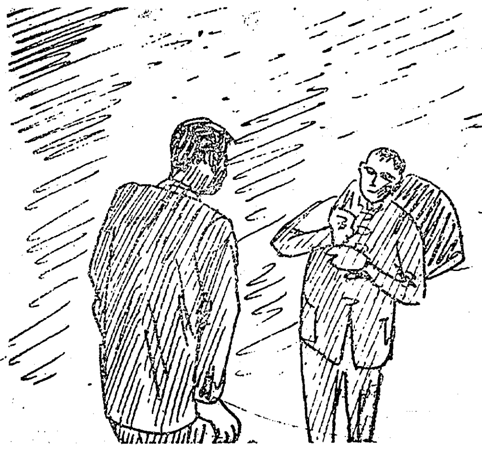
「志村……志村の奴が来た!」

啓介は、飛び上る様にして立つた。

「どこにいる。玄関か、よし。ここをかたずけて置いてくれ。」

啓介はそう言い残すと、階段をどたどたと降りて行つた。女中は一寸頭をかじげて見てから、あわてて掃除にとりかかつた。机の上の名刺には、『志村十郎』と、大きな活字が並んでいた。志村十郎。それは啓介の美校時代の友人であつた。啓介が兵隊にとられた時、前後して彼もまた軍隊の門をくぐつたのである。永い間、啓介は志村の存在を忘れていた。一片の便りどころか、生死もわからなかつたのである。志村はまるで、すべてが啓介とは正反対の男だつた。

野性的で、ごつごつしていて、先天的な楽天家だつた。人間の感情神経を、半分位忘れて生れ落ちたのかも知れなかつた。



啓介が志村と初めて会つたのは、美校の門の前であつた。入学してから一ケ月位たつた頃である。

「君、北海道人だナ。」

「うむ。どうしてわかる。」

啓介は、急に話しかけた大きな男に、それでも、すぐにそう答えた。

「のんびりしているからな。いや、俺も北海道から来たんだ」

「ほう、北海道のどこだい。」

「クシロだ、下宿の良い所を知らんか?。」

自分の名も云わず、相手の名も聞かないうちに、その男は用件を切り出したのである。

「いや。なるべく安い所が良いんだ。あつたら知らせて呉れ。たのむ。」

その男はそれだけ云うと、一寸手を上げてから、さつさと歩き出した。

「おい、君。君」

その男は、ごつい動作で啓介の方へ首を廻した

「君の名は一体何つて云うんだ。」

「志村十郎だ。」

「どこにいる。」

「バタ屋の住家だ。感じが悪いから訪ねて来るのは止した方が良い。」

その男は、もう呼んでもふり向かないぞと云う様な調子で、のしのしと歩き出した。学生服の背すじがほころびて、腕を振る度にパクパクと口があいたり閉じたりしていた。

その日から二、三日たつて、志村はこもに巻いた夜具と、昔風な信玄袋を啓介の下宿にかつぎ込んだのである。

「やあ、部屋はどこだ。」

「安い程良いのなら、俺と一緒でどうだ。」

「うむ。」

志村はのしのしと、啓介の部屋のまん中にふみ込んだ。そして早速、信玄袋の口を開いた。

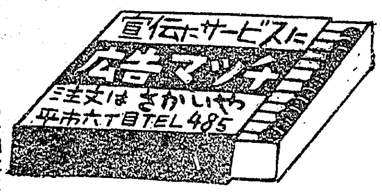
(つづく)

父の借金と幼弟妹抱える 感心な兄弟とヤマの人情

母をなくし、父が家出したあと残された借金を背負つた少年兄弟二人が幼い弟妹四人を抱えて炭鉱で働きながら借金を返済している一方、貸した方では健気な兄弟たちの奮闘に感激、借金を棒引きにして激励しているという人間愛の記録が勿来市山田にあり、地方の人たちを感激させている。

勿来市山田町原前といえば市の北東に当る山深い炭鉱街、ここの万寿炭鉱に勤めている藤田成靖君(一八)同弟博之君(一七)が話題の主。藤田兄弟は妹信子さん(一三)=山田中一年生、弟利明君(一一)=山田小四年生、由起子ちゃん(七つ)=山田小一年生、孝子ちゃん(三つ)の六人暮して、昨年三月までは父茂さん(四三)母スエさん(四三)とささやかな生活を楽しんでいたが、同年三月ごろから母親のスエさんが病気で倒れ八月二十六日なくなつてしまつた。最愛の妻に先立たれ悲観した父の茂さんは十月十五日わびしい生活に耐え切れなくなつてか、自分の月給と子供たちの月給二万余円を持つたまま、家出してしまつた。

残された成靖君たちは幼い弟妹たちのために兄弟揃つて万寿炭鉱に通い続けたが、貧しいために父親が付近の雑貨商土屋千代さん、小林商店、平山商店などから約一万円、また近所の人たちから現金で五千円を借金していた。兄弟二人の給料を合せても一万三千円にきりならない収入では米代だけでも一カ月七千四百円もかかるので副食を買う金もない始末だつたので兄弟が相談し合つて由起子ちゃんと孝子ちゃんの二人を東京と栃木県小山市の親戚に預け、一家の経済の再建を図ることになりこのほど父に金を貸してくれた三軒の家に五百円ずつ入金しな。この事情を聞いた土屋、小林、平山の各商店では〃食うに困る中から借金を返そうということは実に見上げたものだ〃と借金の棒引きを申出てくれる一コマもあつた。



入居者決る 磐城の市営住宅

磐城市では三十一年度の公営住宅入居申請者の公開抽せん会を一日午前九時から市役所大会議室で行つた結果、愛宕地内の第一種木造(十一坪)平家建て六戸第二種木造(九坪)四戸第一種簡耐(十二)六戸諏訪神社裏の第一種簡耐(十一坪)十八戸中之作地内の第一種木造(十一坪)四戸第二種木造(九坪)六戸の計四十四戸分の入居者を次の通り決めた。

「愛宕木造」松井深(日本水素定西二四九)志賀五郎(東北電力南富岡)森久(日本水素林ノ上二〇〇)吉川正一(県水試中坪五〇)高木愛治(小名浜二小君ケ塚)鈴木実(警察署中町境一一三)▽補欠長瀬登(日本水素西町)桑谷広之助(双葉学園)「愛宕木造九坪」井出和一(職安所船引場)宮内大次郎(臨鉄上町)新妻喜久男(福島殖産玉露)小野英雄(藤田組扈野)▽補欠四家良四郎(小名浜漁協組上町)「愛宕簡耐十二坪」坂本二郎(日本水素寺廻り)志尾崎仁(小名浜水産高校上町)小池政昭(日本水素常磐市湯本)武沢三雄(産経沖見二一)江尻注吉(江名中天カ作)八木幹雄(小名浜一中新川間六四)▽補欠伊佐治保(日本水素寺廻り)佐藤年巳(海運局定西)「諏訪神社簡耐十一坪」作山三郎(市役所中之作)坂野匡(小名浜水産高校蛭川南)馬目大(電々局古港)磯上利夫(日本水素高山)小田島平治(電々局古港)太田力夫(警察署新川北)大内英夫(東邦銀行中坪)江井敏雄(水産高校御殿後)上遠野一雄(市役所花畑)小林成典(小名浜一中明神町)岸仲男(日本水素横町)鈴木遼(日本冷蔵元分)渡辺一(小名浜運送須賀町)小野巳木雄(小名浜測候所神渡)真野恭平(小名浜運送定西)白石久義(日本水素定西)▽補欠藤村一夫(水産高校古港)星義次(警察署定西)立花常次(小名浜運送野田)遠藤正(日本水素寺廻り)「中之作木造十一坪」吉田栄吉(漁夫中之作)吉田梅次(漁夫中之作)吉田弘(漁夫中之作)吉田達夫(江名中江名)▽補欠吉野新平(電々局江名)「中之作木造九坪」舟幸雄(中之作漁協組折戸)片寄末雄(漁夫江名八代昭二(漁夫中坪)鈴木健三(江名造船所江の浦)桝井祐(職終事務所江名)菅野勝次(警察署江名)▽補欠佐藤春栄(警察署中之作)寒河江実(中之作漁協組)

若妻が飛込み自殺

一日午後五時半ころ石城郡遠野町上遠野字下滝地内滝つぼに女物げた、ビニール製財布(三千五十六円在中)入りのふろ敷包み一個があるのを通りかかつた石城郡玉川村辰崎字糀谷農上野龍治さん(五〇)が発見、勿来署に届出た。同署で調べたところ遺留品から遠野町入遠野字入定農平子泰治さん(三七)妻孝子さん(三三)のものとわかつた。

このため二日朝から消防団員五十名が滝つぼを探したが深さ四間余もあるので午後二時から潜水夫三名を雇い探したところ午後五時半に死体を引揚げた。孝子さんは石城郡遠野町大字入遠野字貝那夫農永山忠義さんの五女で去る一月に平子さんに嫁ぎミス農村などにも選ばれた美人であるが、原因は最近創価学会にこり過ぎたためらしい。

今晩のラジオ

◇NHK(第一)

六、〇〇 子供の時間
六、一五 スポーツ便り
六、三〇 一丁目一番地
六、四五 今日の横顔
七、一五 録音ニュース
七、三〇 お笑い職業案内
八、〇〇 放送演芸会
九、〇〇 ニュース解説
九、一五 ロイブナー特別演奏会
一〇、一五 時の動き
一〇、三五 虹の劇場
一一、一〇 きょうの国会から

◇ラジオ福島

六、〇五 トニーの童話
六、一五 赤胴鈴之助
六、四〇 永遠に答えず
六、五〇 音楽の小箱
七、一〇 録音ニュース
七、一五 人情夜話
七、三〇 演芸アマカラ亭
八、〇〇 素人物まねコンクール
八、三〇 浪曲
八、四五 名流小唄集
九、〇〇 明色アベツク歌合戦
九、三〇 貴方のえらんだ今週の花形歌手
一〇、〇五 名作アルバム
一〇、一〇 夜の案内
一〇、一五 夜の調べ

今晩の映画

▼東映劇場 七、一三 無敵社員 八、三九 大名ばやし 九日マデ
▼世界館 七、二九 朝の口笛 八、三〇 真田十勇士総進軍 九日マデ
▼民劇 六、三〇 男の魂 九日マデ 八、三八 ラドン
▼ひかり座 六、五三 銃口を上に向けろ 八、四五 法律なき町 八日マデ
▼聚楽館 六、四〇 陽気のせいデス 八、四〇 八月十五夜の茶屋 八日マデ
▼平館 六、四〇 危険な関係 八、一〇 野武士と女 九日マデ

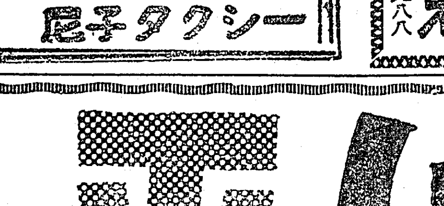
眞根井商店 平市銀座 電二〇二五

会津清酒
うまい酒
夢心
販売 東洋酒販株式会社

看護婦 家政婦 の御用命は…電三〇七番へ
労働大臣認可 平看護婦家政婦斡旋所
尚派出多忙=看護婦・家政婦=募集

お花見の……
御宴会、折詰、仕出しは是非お気軽に御利用下さい
尚御値段も格安に御相談に応じます
◎夜間営業を致して居ります
大衆食堂 さかえ 平市駅前 電九八八

貸切の御用命は
電話 640番



尼子タクシー

平けいりん
場外車券売場
福島市・郡山市
若松市・平市大町
發走11時
小雨決行
4月 前節 6日 7日 8日
主催 平市